

乳幼児期の発達と遊び ～子どもが子どもらしく過ごすために～

20180215

久保 健太

kubo@kanto-gakuin.ac.jp

1.

- 発達と遊び
- 子どもらしさ

- おもしろいなあ、すごいなあ、これってどうなんだろう。
- 気づいたことを自由にメモしてください。
- 正解はありません。

- お隣の方とシェアしてください。

2. リヤカーの場面を見て

- くしぶちさん：保育者の方が声をかけずに、子どもたち同士で話し合って、問題解決をしている。
- あさみさん：ただ動かすだけだとダメだということが分かった子がいて、持ち上げたり、動かし方を変えていた。
 - ①主体的・対話的で、深い学び
 - 「要領」に登場する言葉
 - 主体的な学び：子どもの本人のやりたいことから始まる学び。大人の「やらせたい」から始まる学び。
 - 対話的な学び：友達が試行錯誤する姿からの学び。
 - 深い学び：

3. リヤカーの場面を見て

- あさみさん：ただ動かすだけだとダメだということが分かった子がいて、持ち上げたり、動かし方を変えていた。
 - 深い学び：学びの深さには3つのレベルがある。
 - 学習Ⅰ：言われた通り、教えられた通りに解決しようとする。指示待ち人間、マニュアル人間。例えば、動きかくなる。つたりヤカーを前に、保育者に動かし方を聞きに来る。
 - 学習Ⅱ：自分たちで状況を把握しながら、問題を解決しようとする。
 - 学習Ⅲ：自分たちの状況把握の仕方、問題解決の仕方、問いも、引くでもなく、持ち上げるという方法を編み出す。例えば、押し出す。

4. リヤカーの場面を見て

- あさみさん：ただ動かすだけだとダメだということが分かった子がいて、持ち上げたり、動かし方を変えていた。
 - 学習Ⅲ：自分たちの状況把握の仕方、問題解決の仕方すら問い直しながら、新しい方法を編み出す。例えば、押すでも、引くでもなく、持ち上げるという方法を編み出す。
- 学習ⅡとⅢの違い：既存の知識・技術・方法で解決するのを学習Ⅱと呼び、新しい知識・技術・方法を編み出すのを学習Ⅲと呼ぶ。

5.

- 学びには5つの段階がある（エンゲストローム：ヴィゴツキー派の教育学者）。
 - 1. やりたい！
 - 2. やりたいけど、できない。できないけど、やりたい。 ← ここで「深い学び」は生まれます。
 - この「第二段階」をどう見守るか？
 - 先ほどの場面では、保育者が持ち上げてしまったら、「学び」の機会は1つ失われる。
 - 3. やった！できた！
 - 4. いつでも、どこでも、できる。やりこなせる。
 - 5. できるようになったことが、周りの人間に波及していく。

6.

- かけ登りの場面
- おもしろいなあ、すごいなあ、これってどうなんだろう、など、気づいたことをメモしてください。
- お隣の方とシェアしてください。

7.

- 友だちが頑張っている姿と一緒に応援してあげたり、登れた子にみんなで「すごい」と共有している。
 - 「やりたい」の火をつけるのは、保育者の声かけよりも、子どもどうしの「姿」です。
- 勢いよく走る子が登れないで、自分で考えて勢いをつけない子が登れた。面白いなあ。
 - 「正しいやり方」よりも「その子なりのやり方」をまずは認めてあげる。
 - 「やりたい」の気持ちがあれば、徐々に「正しいやり方」を身につけます。

8.

- オレンジの子が前にいる。応援もしてあげたいし、自分もやりたいし、葛藤がある。
- 自分がやりたいもあるし、みんなでもやり遂げたい。両方の気持ちがある。

- 1. やりたい = 主体的な学び
- 2. やりたいけど、できない = 試行錯誤（失敗）を通じた学び = 対話的な学び、深い学び
- 3. やった！できた！
- 4. いつでも、どこでもできる

9、

- 「やりたい」ときにどうして譲り合うことができるのか？奪い合うのではなく。
- 「できない」姿を、どうして見せ合うことができるのか？
 - 基本的信頼（エリクソン）が育っているから。
 - 正直、忘れた。ボウルヴィの愛着（アタッチメント）の理論。

10.

- 基本的信頼（エリクソン）

- 「欲求表出（泣き、笑い、表情など）に対して、個別に、応答（配慮、ケア）してもらふことで育つ感覚」

- 0～2歳

- ① この人は、自分に応答してくれる人だ。という相手への信頼。

- ② 自分は、他者から応答してもらえる大事な存在なんだ。という自分への信頼。

11.

• 応答するとは？

- 離れていても、戻ってきてよ（欲求表出） と言えば、戻ってきてくれる（応答）。
- 譲っても、やりたいと言えば、自分の番がくる。
- 貸しても、返してと言えば、返してしてくれる。
- できなくても、助けてと言えば、助けてくれる。
（リヤカーの場面で、「みんな力を貸してくれ」
（「僕一人じゃできないよ」）と言えるのは、基本的信頼があるから）。

• ①

• ②

12.

• 応答するとは？

- 離れていても、戻ってきてよ（欲求表出） と言
えば、戻ってきてくれる（応答）。
- 譲っても、やりたいと言えば、自分の番がくる。

- ① 保育者と子どもとの基本的信頼
- ② 子どもどうしの基本的信頼

- ②がないと、「やりたい」を譲り合ったり、
「できない」を見せ合ったりができない。

13.

- 小まとめ：「できない」や「やりたい」を率直に見せることができるのは**基本的信頼**（エリクソン）が育っているから。
 - 特に大事なものは、子どもどうしの**基本的信頼**です。
- どう育てるか？
- 「ハプニングと一緒に対処する」
 - 「ハプニング」動かなくなっちゃった、落としちゃった、こぼれちゃった

14.

- どう育てるか？
- 「ハプニングと一緒に対処する」
 - 「ハプニング」動かなくなっちゃった、落としちゃった、こぼれちゃった
- Aちゃんが落としたものを、Bちゃんが拾おうとする。
- Cちゃんがこぼしたものを、Dちゃんが拭こうとする。
- こういった体験を積み重ねる。
- 「この子は、自分のことを助けようとしてくれる子だ」という感覚が蓄積されます。

15.

- 「この子は、自分のことを助けようとしてくれる子だ」という感覚が蓄積されます。
 - 「助けてくれる人だ」（能力に対する信頼：能力があるから信頼する）
 - 「助けようとしてくれる人だ」（意図に対する信頼：意図（意志）があるから信頼する）
- 「助けたい」という意図を伝え合う時間を保障する。
- それ以前に「ハプニング」を保障する。場合によっては、「その日の日案」よりも。
- ハプニングは、子どもどうしの基本的信頼を育むチャンス。

16.

- 「自立」の考え方を見直さなくてはいけない。
- 「自立」というのは「自分のことは自分でやる」だと思われていました。しかし、「自分たちのことは自分たちでやる」くらいの考え方の方がいい。
 - つまり「依存しないこと」ではなく、「依存し合って、問題を解決していくこと」です。
 - ただし、食事、排泄、着脱は、自立を目指す。

17.

- 正統的周辺参加（周辺参加）
 - 見るだけ参加、聞くだけ参加、口だけ参加から始まって、徐々にガッツリ参加に入っていく。
 - 「その子なりの参加」から始めて、徐々に、ガッツリ参加になっていく。
- リヤカーの場面でも、「その子なりの参加」が多くみられました。

18.

- 正統的周辺参加（周辺参加）
 - 初級者、中級者、上級者が、一つのコミュニティの中にいる。
 - 最初は「見習い」「初級」から始めて、徐々に技術を身につけ、上級者になる。
- 「やりたい子」しか参加しない。なので、大怪我しない。
- 複数のコミュニティが同時進行している。
- そのコミュニティが一方はダイナミック、一方は、まったり（こじんまり）。この両極が大事。

19.

- 周辺参加のいいところ
 - 「やりたい」に火がつきやすい。
 - そして、すぐカラダが動かせる。

- ココロが動けば、カラダが動く。
- カラダが動けば、アタマが動く。